

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【茨城県】

1 実践テーマ	【 II・III・V 】
2 実施対象者	茨城県潮来市立潮来小学校 (1) 車イスバスケット体験 全学年224名 (2) ボート出前授業 第4学年～6学年121名 (3) おもてなし講座 低学年の部 第1学年～3学年 73名 高学年の部 第4学年～6学年121名
3 展開の形式	(1) (1)学校における活動 ① 教科名(学活, 道徳, 総合的な学習の時間) 2 行事名() 3 その他() (2) 地域における活動 1 イベント名() 2 その他()
4 目標 (ねらい)	○ 車イスバスケット体験を通して、障害者スポーツへの理解を深める。 ○ オリンピアンが一生懸命にスポーツに取り組む姿勢から、スポーツをすることの楽しさや喜びを味わい、オリンピック・パラリンピックへの関心・意欲を高める。 ○ おもてなし講座を通して、おもてなしの心やボランティア精神を学ぶ。
5 取組内容	(1) 車いすバスケット体験(全学年対象) ① 実施日 平成29年11月17日(金) 午前10時10分～午前12時00分 ② 講師 IBARAKI Sports for Everyone 代表 愛知 裕子氏 他 車いすバスケットプレーヤー3名 スタッフ9名 ③ 内容 ア 車いすバスケットのデモンストレーションを見学した。 イ 3つのコーナーを設置し、グループごとにローテーションで行った。 ○ いすに座ったままシュート ○ 車いすバスケットの説明 ○ 車いすリレー ウ 6年生代表児童が実際に車いすを操作し、車いすバスケットボールのゲーム体験をした。



【いすに座ったままシュート】



【車いすバスケットの説明】



【車いすリレー】



【ミニゲーム】

④ 感想

- 体の不自由な人でも、スポーツが楽しめるように、いろいろな工夫がされていてすごいなと思いました。
- 車いすバスケットをやっている人を見たら、とても輝いていて、一生懸命取り組んでいるのだと思いました。自分もこれから一生懸命にやっていたいと思いました。
- 車いすバスケットを見て、とても迫力があると思いました。
体が不自由な人でも活躍できる車いすバスケットは、とても大事なスポーツだと思いました。
- いろいろな車いすがあるのを知りました。体に障害がある人でも楽しめる素敵なスポーツだなと思いました。
- 車いすバスケット体験を通して、障害のある人たちでも楽しめるスポーツがたくさんあることを知りました。

(2) ボート出前授業（第4学年～6学年）

- ① 実施日 平成29年11月29日（水）
午前10時30分～午前12時00分
- ② 講師 リオ五輪ボート日本代表 中野 紘志 選手
- ③ 内容
 - ア 講話「みんなに伝えたい三つのこと」
 - イ ボート体験（エルゴメーター体験）



【中野選手の講話】



【エルゴメーター体験】

④ 感想

- 中野選手のこれまでの経験や挫折した時のお話など、とても貴重な話が聞けました。ぼくもこれから失敗や挫折などがたくさんあると思うけれど、中野選手が言っていたことを思い出しながら生活していきたいです。
- 中野選手の話聞いて、いろいろなことにチャレンジすることが大切だと知りました。私もがんばりたいです。
- いろいろな事に挑戦し、3年ぐらい諦めずにがんばってみることが大事だということが分かりました。
- 一つの夢に向かって諦めずにがんばり続けるのはすごいなと思いました。失敗からいろいろなことを学び、成長していくものと分かりました。
- 「子供の頃から、オリンピックに出るという目標に向かってがんばった。」という話を聞いて、目標に向かってがんばりたいと思いました。

(3) おもてなし講座

① 実施日 平成30年1月17日(水)

低学年の部 午前 9時10分～午前10時10分

高学年の部 午前10時30分～午前12時00分

② 講師 筑波大学客員教授 江上 いずみ 氏

③ 内容 「グローバルマナーとおもてなしの心」

2020年を迎えるホスト国日本の国民として、どのようなおもてなしの心をもつべきなのか。それを表すために「表情・態度・身だしなみ・言葉遣い・挨拶」の5つが大切であることを、具体例をあげながら楽しく学んだ。



【低学年の部】



【高学年の部】

④ 感想

- 相手と目を合わせてお話をしたり、正しい言葉遣いを学んだりしました。おもてなし講座で学んだ話は、将来役に立つと思うので覚えておきたいです。
- 普段の生活から、ルールやマナーを守り、おもてなしの心で接することが大切だと改めて思いました。
- 相手の気持ちをしっかりと理解し、自分がされてうれしいことを友達に進んでしていきたいと思いました。
- 人に笑顔で接したり、相手の目を見て話したりするのは、とても大切だと思いました。これからは、おもてなしの心を忘れずに生活していきたいと思いました。
- 東京オリンピック・パラリンピックでは、日本にきた外国人におもてなしの心をもって、接していきたいです。

6 主な成果	(1) 児童のアンケートの結果 ①オリンピック・パラリンピックについて、よく分かりましたか。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 30%;">ア よく分かった</td><td style="text-align: right;">83%</td></tr> <tr><td>イ 分かった</td><td style="text-align: right;">16%</td></tr> <tr><td>ウ あまり分からなかった</td><td style="text-align: right;">1%</td></tr> <tr><td>エ 分からなかった</td><td style="text-align: right;">0%</td></tr> </table> ②2020年東京オリンピック・パラリンピックを応援したいと思いますか。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 30%;">ア とてもそう思う</td><td style="text-align: right;">81%</td></tr> <tr><td>イ そう思う</td><td style="text-align: right;">18%</td></tr> <tr><td>ウ あまり思わない</td><td style="text-align: right;">1%</td></tr> <tr><td>エ 思わない</td><td style="text-align: right;">0%</td></tr> </table> (2) 成果 ○障害者スポーツに対する認知度は低かったが、車いすバスケット体験を通して、障害者スポーツへの理解を深めることができた。また、障害がある人も、明るく前向きに、いろいろなことに挑戦している姿に勇気をもらい、健常者も障害者も共にスポーツを楽しむことができることを実感できた。 ○2019年に行われる茨城国体の会場であり、潮来市で盛んなスポーツのボートを体験することで、ボートに対する関心・意欲を高めることができた。そして、オリンピックとして、夢に向かって諦めないで頑張ろうとする姿に感銘を受け、何事も一生懸命に取り組み、夢に向かって努力する大切さを知ることができた。 ○おもてなし講座を通して、「表情・態度・身だしなみ・言葉遣い・挨拶」の5つが大切であることを楽しく学び、2020年をホスト国日本の国民として、どのようなおもてなしの心をもつべきなのかを理解することができた。 ○3つのオリンピック・パラリンピック教育推進事業を通して、2020年東京オリンピック・パラリンピックの興味・関心を高め、スポーツを楽しむ心の育成を図ることができた。	ア よく分かった	83%	イ 分かった	16%	ウ あまり分からなかった	1%	エ 分からなかった	0%	ア とてもそう思う	81%	イ そう思う	18%	ウ あまり思わない	1%	エ 思わない	0%
ア よく分かった	83%																
イ 分かった	16%																
ウ あまり分からなかった	1%																
エ 分からなかった	0%																
ア とてもそう思う	81%																
イ そう思う	18%																
ウ あまり思わない	1%																
エ 思わない	0%																
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	○オリンピック・パラリンピック教育推進事業を進めるに当たり、教育委員会と連携し、講師を紹介してもらったり、車いすやエルゴメーターを運搬してもらったりして実践した。 ○児童が地域に根ざしたスポーツを実感できるように、潮来市で盛んなスポーツのボート体験を取り入れ、地元に住んでいる選手を招いた。児童はボートをより身近なスポーツとして捉え、みんなで応援していこうという態度を育てることができた。																
8 主な課題等	講演会の講師依頼について、講師を選定するところから、交渉して実践するところまで全て学校が行うことは、時間がかかり難しいと感じた。今後は、講師やゲストティーチャーなどの人材バンクのリストがあれば、目的やねらいに合わせた計画が進めやすいと思う。																
9 来年度以降の実施予定	2020年の東京オリンピック・パラリンピックについて、理解を深めるために、指導参考資料などを活用しながら授業を積極的に進めることで、オリンピック・パラリンピック教育の充実を図るようにする。																